

経営比較分析表（平成29年度決算）

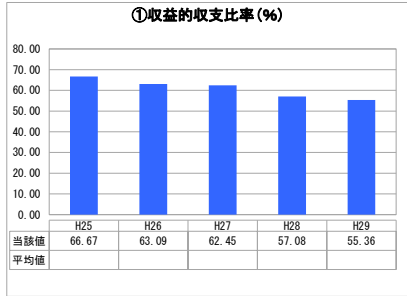
神奈川県 山北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Co2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	80.86	83.39	1,188

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,583	224.61	47.12
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,477	3.14	2,699.68

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



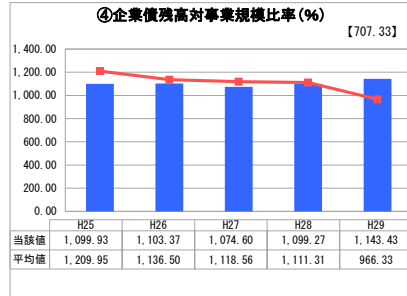
「単年度の収支」



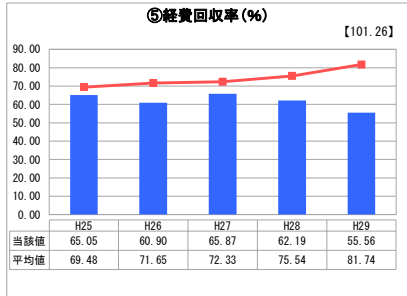
「累積欠損」



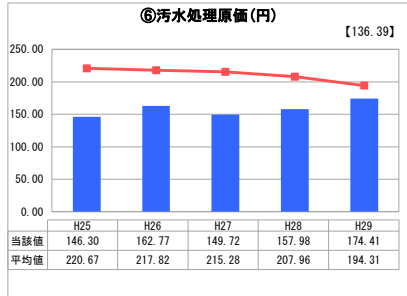
「支払能力」



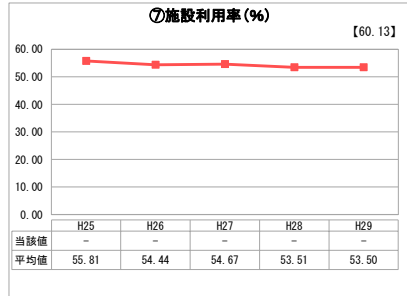
「債務残高」



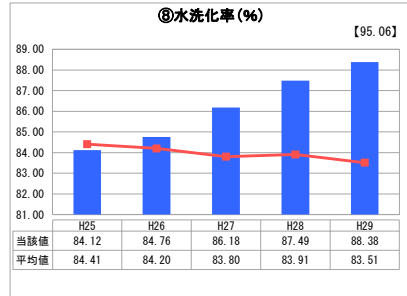
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

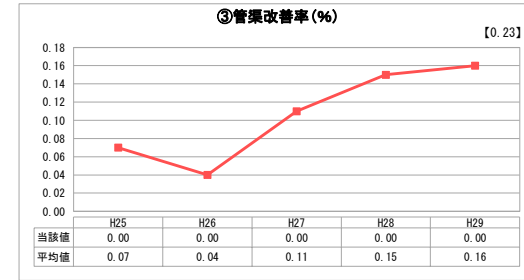
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析編

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率が前年度57.08%に対し55.36%と下回り、年々経営状況が悪化しており、単年度収支も不足していることから、経営改善に向けた取り組みが必要となっています。そのため、供用開始から一度も改定を行っていない使用料について、収入増加に向け次年度から段階的に使用料の見直しを行う予定です。

また、経費回収率についても約56%と、汚水処理に係る経費を使用料だけでは賅うことが出来ないため、一般会計繰入金等で補っている状況です。

水洗化率については、類似団体の平均値よりは上回っていますが、使用料収入の更なる増加に向け、水洗化率向上のための啓発等を行ってまいります。

2. 老朽化の状況について

当町の下水道汚水管渠の布設は、一部地域を除いて平成元年から行っています。現在耐用年数を迎えている管渠はありませんが、平成元年より前に布設された管渠がこの先10年程度で耐用年数を迎えるため、既存の管渠や施設の適正な維持管理と点検、及び老朽化した管渠の更新を進められるよう、次年度からストックマネジメント計画を策定する予定です。

全体総括

収益的収支比率、経費回収率ともに100%に達しておらず、今後はより厳しい経営状況となることが見込まれます。また、一定時期に集中して布設を行ってきたため、管渠の更新時期が重なることや維持管理費用の増大が見込まれることから、効率的な更新と維持管理を行えるようストックマネジメント計画を策定します。

また、下水道事業の健全な運営のために、使用料を見直し、審議会も継続して行っていく予定です。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。